

豊後大野市研修旅行による幼き日々への回顧

吉田 洋子

史談会で豊後大野市に研修旅行に行くことになり、佐藤末喜さんから案内をと言われる、はたと思った。自分ほどの程度豊後大野市のことを知っているのか。人様に説明できるほどの知識を持ち得ているのか。

考えてみると十八年しか住んでいなかったし、幼少時北九州の祖母に預けられていた時期や物心つくまでの年数など差し引くと十数年しか住んでいなかった。父が昔の小富士村（現竹田市片ヶ瀬）から朝地に養子に来ていたせいもあり、朝地町そのものも旧岡藩領であった為か私の生活圏はほとんど竹田であった。

豊後大野市の三重町に行くのは中学生になって大野郡の学校行事くらいのものであった。

二十四日は天候に恵まれ、まずは豊後大野市三重町へ。高規格道路がだいぶ整備されたので三重町も昔のように犬飼から行くより千歳インターで降りたほうが便利になった。

大原の農業技術センターの横を通り三重町駅に降りる。主人が農業技術センターに在籍していた時に何度か用事で来た道、最近は大原体育館に来ることのほうが多いけど、豊後大野市の中心の町として発展をとげている。

駅前商店街も思ったよりさびれていない。（向原商店街のすたれように比べると）官庁街は昔より、はるかに発展しエイトピア大野や市役所の庁舎も立派になっていた。

商店街を抜けるとき中学生のとき警察署の道場で中体連の剣道の試合に来たことや汗臭い面を思い出した。

三重中学は商店街からさらに真つ直ぐ進んでいかなければならなかった。郡の弁論大会とかで来たっけ。

三重農業高校が建て替えられ三重総合高校になって、田舎の少子化を痛感した。

竹田高校時代教えていただいた吉田慧日先生が就職をされている浄土宗の浄雲寺の前を通り内山観音へ。

昔は般若姫の像の下の狭い道を通って行っていたが今は広い駐車場が整備されバスで行きやすくなっている。

事前に拝観の申込みをしていなかったので今回は本堂に上がれなかった。千体仏のお堂で本堂に千体の仏像が安置されているのか計算してみたらちゃんと千体安置されていた。京都の三十三間堂以外にこんなにくさんの仏像を拝めるところはないだろうとみんなで感心した次第。

お天気もいいし般若姫の像のところまで登った。最初はみんな像を褒めていたが像の裏に回ってみると平成三年に建てられたものと分かり、「なーんだ。ふるさと創生事業か」もつと昔からあったような気がしたけど人間の記憶なんていいかげんなものだと思った。開花し始めた桜を後に、菜の花、花桃をながめながら車中で二宮

壽先生のジオパークのお話や緒方三郎の話等を聞きながら緒方町へ。

最初に鷹来屋に行ってお酒の試飲。緒方五千石米所。昔から三軒の造り酒屋があり、金鷹、銀嶺、日本晴だったと覚えている。日本晴は高校の時の親友由美ちゃんのお母さんの実家だ。日本酒で漬けた梅酒や酒粕でつくった甘酒、初しぼり全部試飲。いつも留守番の主人に金鷹一升お土産に購入。

緒方三郎の館跡に寄り、原尻の滝へ。

食事の予約をして滝散策。原尻の滝のすぐそばに母の伯母さんが嫁いでいたので子供のころからやれ、春祭り、秋祭り、ご法事、結婚式とよく来ていた。その都度滝に遊びに来ていた。大伯母の家の前を流れる緒方井路の水量の多さ、井路の幅の広さは子供の私には怖かった。

滝の周辺は今のようには整備されていなかったが滝壺のほうに降りて遊ぶのが常だった。昔はもつと水量が多く、滝から落ちる水が霧となって顔にかかるのが楽しかった。スポーツ万能の弟は小石を水面に投げて水面を三度ほど切つて飛ばすのがとても上手だった。運動オンチの私は一度もできず弟が羨ましかった。大人になったからできるかなと淡い期待をもって投げてみたけど、水を切るどころか明後日の方にポチャンと沈んだ。運動オンチはいくつになっても治らないと悟った。

滝の上も歩いて川の反対側をまわり吊り橋を回って一周。滝の上の鳥居のそこを霜月祭りに下帯姿の男の人がお神輿を担いでジャブ

ジャブわたるお祭りもよく見に来ていた。寒がりの私は男に生まれなくてよかった。と子供心に思ったものだ。旧暦の霜月だし、昔は今よりずーっと寒かったように思う。

みんなで団子汁と散らし寿司のお昼を摂り、宮迫の石仏へ。坂道なので足の悪い人にはちよつと気の毒だった。でもみんなが感心したり、喜んでくれたので嬉しかった。

こういう文化財のたくさん残っていると生まれてきたことをありがたく思う。明治十八年生まれ曽祖父や曾祖母、その友人など周りにたくさんのお年寄りに囲まれ、愛情をいっぱい注いでもらったことや、お寺参りやいろんな行事にも連れて行ってもらえたことは誰よりも無形の財産を貰っていて幸せなことだと思う。

緒方から大野川にかかる猿飛橋を渡って朝地に入るのだが小学校のときは猿飛橋の河原に遠足によく来ていた。そんなお話もみなさんにすると良かったのだがちょうどほかの方がお話しされていたので機会を逃してしまった。

曾祖父は乗り物酔いがひどい人だったので汽車で緒方に行くよりはこの道を歩いて大伯母の家に行っていた。曾祖父の御供をするときは歩いて緒方に行くのだが子供だったがちよつとも苦にならなかった。私のことを思って汽車で行ってくれる時もあつたが曾祖父が汽車に酔って苦しうに戻したりするのを見るのは耐えられなかった。

曾祖母と行くときは朝地から汽車に乗って緒方に行くのだが豊肥線はトンネルが多く窓を開けたり閉めたりとても忙しかった。緒方

駅からバスで上自在の大伯母の家に行くのだがバスが水路に落ちるんじゃないかとヒヤヒヤだった。

曾祖父は昔県病で手術をうけ、その主治医の先生が県病をやめて郷里の緒方に帰って開業されていて、その先生でないためだというのでお薬を貰いにお使いに行ったことがある。下の弟を連れて汽車に乗って行ったのだが帰りの汽車にちよつとの差でおくれてしまいい次の汽車まで一時間以上待たなければならなかったことがあり、待ち切れずに歩いて帰ったことがある。時々ぐずる弟を駅前のお店で買った干しブドウを少しづつあたえながら時々おんぶしたり、手を引いたり騙しだまし帰ったことがある。母に褒められると思いきや次の汽車を待って帰ればよかったのにと呆れられた。今大人になつて思えばその方がきつと早かつたのだらうけど、懐かしい思い出だ。

緒方から五十七号線に交わる大橋の下はうちの田んぼだ。子供のころ稲刈りの手伝いなどをよくさせられた。今は早稲が多いけど昔は早稲に中手、奥手と稲刈りの期間も長くここの田んぼを刈るのは勤労感謝の日のころであった。用作に紅葉狩りに行く人の群れを眺めて、なんでこんなこと手伝われるのか恨めしく思ったものだ。今考えると厳しく手伝いをさせられたから今の私があり、ある程度苦しさに耐えたり我慢が出来たりするように育つたのであつて親の有難さをつくづく思う。

神角寺に登る。昔とずいぶん変わってしまった。お堂だけが昔のまんま。

小学校高学年になると池在の今の朝倉記念館の脇を通つて努力遠足で来ていた。大恩寺小学校だけでなく温見小学校や綿田小学校も同じ日に登つて来ていて今の駐車場のところでダンスを披露したりしていた。他の学校の生徒がすくないのでびっくりだった。帰りに秋グミをとつて食べた、途中でお弁当の残りを食べたり、帰り道が楽しかった。朝倉記念館のちよつと上の沢に水車があつたのが珍しく、そばを通る時「森の水車」の歌を唄つたりしていた。緒方井路で田んぼに水を入れる水車しか見たことがなかつたので精米、製粉の水車はここだけだった。それもじきに無くなった。

神角寺から朝地、竹田の方角の木が伸びて見通しが悪くなつて残念だった。

久々に故郷豊後大野市を皆と訪ね楽しかった。
ふるさとにはありがたきかな。